

「大分都市圏総合都市交通計画（原案）」に対する意見募集の結果

番号	意見等の概要	意見等に関する考え方
1	<p>バスなどは運行頻度も乏しく、どこに通っているのか分かりづらいので、循環型の LRT のような路面電車を大分駅南口の上野辺りから県庁辺りを通り、ドンキホーテ大分店付近で2方向に分かれるようにして、街中を通る方面とそのまま直進してオアシス21を通り上野方面に戻るというルートを作って欲しい。そうすればバスを待つより路面という目に見える形で行き先がわかり易く、高齢者から若者まで普段大分駅近くでしか買い物が出来なかった歩行者たちがドンキホーテ方面やオアシス付近まで行きやすくなる。</p> <p>西大分港付近が行きやすければ若者にも凄く需要があるのではないかと思う。</p>	<p>市内を循環する分かりやすい公共交通網は、利用者が安心して公共交通を利用していただく上で非常に重要な視点だと考えています。路面電車の計画は現段階ではありませんが、本交通計画では大分市中心部や明野地区で地区内の回遊性を高める循環バスの運行について記述しています。</p> <p>1つの取組として今年6月からは、大分市により大分市中心部での循環バスの社会実験が行われています。今後も交通事業者と連携し利用者の状況やニーズを把握しながら取り組んでいきます。</p>
2	<p>ある程度の規模の都市圏を形成し、人口が集中することのメリットは大きい。人（歩行者）のために、公共交通を整備して、県内の買い物・通院難民の高齢者世帯にまとまって移住（集住）していただければ、巡回を要する介護サービスなどが効率的になる。また「車がないと生活できない田舎」を敬遠していた、東京からの転入増も見込まれ、“大消費地帯”ができれば、周辺自治体の産業振興につながり農・水産物を、遠い首都圏でなく、隣の都市へ、低コストで大量供給できる。</p> <p>物流のために道路整備も必要。</p> <p>交通政策は都市計画の要と思う。</p>	<p>高齢化社会において生活を支える交通手段が必要とされている等の社会情勢をふまえ、本計画では、広域交通網の形成や都市圏における拠点間の連携、拠点内での移動といった3つの視点で整理しています。その中では公共交通に関する施策例として基幹バスシステムの導入によるバス網の再構築や路線バスやタクシー、コミュニティバスなどの地域公共交通による交通手段の確保などを挙げており、今後も各機関と協力しながら計画を推進していきます。</p>